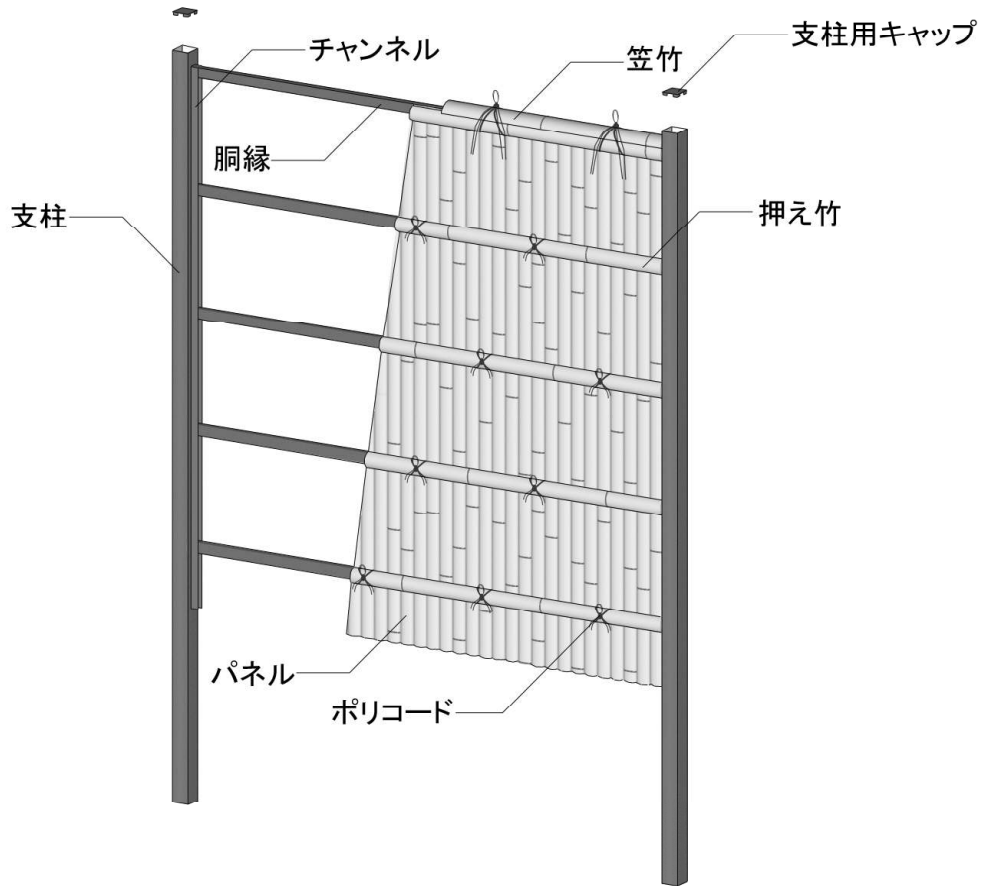


この度は、弊社の人工竹垣フェンスをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。
本書には、製品を安全にご使用いただくための注意事項が記載されております。製品を施工する前に、必ず本書の「設置上のご注意」、「施工上のご注意」、「取扱説明書」をよくお読みのうえ、正しくお使い下さい。

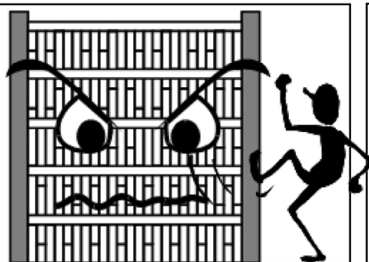
■部材構成及び各部名称



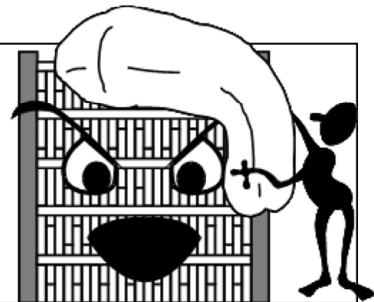
■使用上のご注意 フェンスは、隣地境界を目的に設置するものです。防護柵や手すりとしては使用しないでください。

⚠ 注意

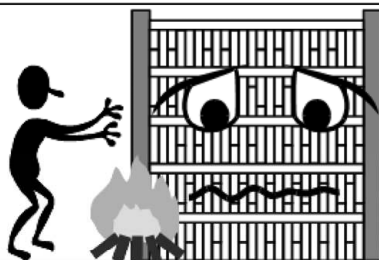
ケガをする恐れがありますので、揺すったり、乗ったり、寄りかかったりしないでください。



重みで変形することがありますので、雨具・洗濯物・布団等を載せないでください。



樹脂製品は、熱変形温度が低く、引火の可能性もありますので、近くで焚き火等をしてしないでください。



ネジやボルトなどは、勝手にゆるめたり外したりしないでください。また、加工・改造したりしないでください。



お問い合わせは

株式会社 **タケヒロ産業**

〒444-0823 愛知県岡崎市上地3丁目41-1

タケヒロホームページ <http://www.e-takehiro.co.jp>
メールアドレス takehiro@e-takehiro.co.jp

TEL (0564) 52-5511 (代)

TEL (04) 2955-8811 関東営業所

2006.09

注意

- 商品の施工につきましては、必ずこの組立説明書に従ってください。
- フェンスは隣地境界を目的に設置するものです。防護柵や手すりとしては使用しないでください。

設置上のご注意



- 竹垣は、風当たりの強いところや、地盤の弱いところなどで使用する場合には、必ず補助の柱(控え柱)が必要です。別途ご相談ください。
- 人工樹脂は、一般金属などと比べると、熱変形温度が低く(約80~95℃)、引火の可能性もありますので、火気のそばや高温を発生するところでは使用しないでください。

施工上のご注意



- 商品を組み合わせて使用する場合、指定の部材を使用してください。指定外の部材の使用はお避けください。
- 人工樹脂素材は、温度差により伸縮します。パネルなどを違う材質のものと固定する場合、ビス穴等には必ず余裕を持たせてください。
- 人工竹垣の各部材は、他社の類似製品とは素材、品質、仕様が異なります。他社製品との併用はお避けください。
- 柱は必ず地中に埋め込み、コンクリート等で固定してください。
- コンクリートに使用する砂に、塩分を含んだ海砂などは避けてください。アルミ合金が腐食する恐れがあります。
- コンクリートに速乾性添加物を入れないでください。アルミ合金が腐食する恐れがあります。
- 設置場所の地下埋設物の有無を確認し、破損しないようにしてください。
- 寒冷地では凍結により、埋設部分が浮上することがありますので、その地域の凍結震度に合わせて基礎を考慮してください。
- 仕上後、本体についたモルタルを完全にふき取ってください。硬化してしまうと、ふき取り時に製品の表面を傷めますのでご注意ください。
- 施工にあたっては、製品の水平・垂直、ねじれ等にご注意ください。
- みだりに製品の改造を行わないでください。
- 施工完了後、ボルト、ねじ、金属等の緩み、脱落がないか再度点検してください。

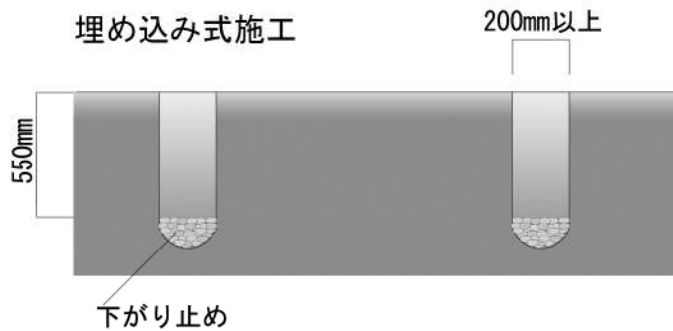
工事店さまへのお願い



- 施工完了後、組立説明書及び取扱説明書は、施主さまにお渡しください。
- 廃棄する場合は、素材ごとに選別し、一般廃棄物と一緒に処理しないでください。

Step 1

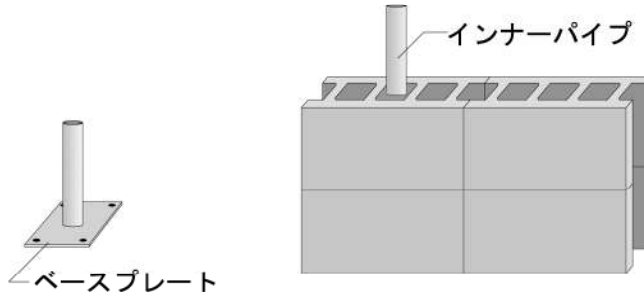
基礎の準備



※その他の施工方法

コンクリート上で施工
ベースプレートを使用

ブロック上で施工
インナーパイプを使用



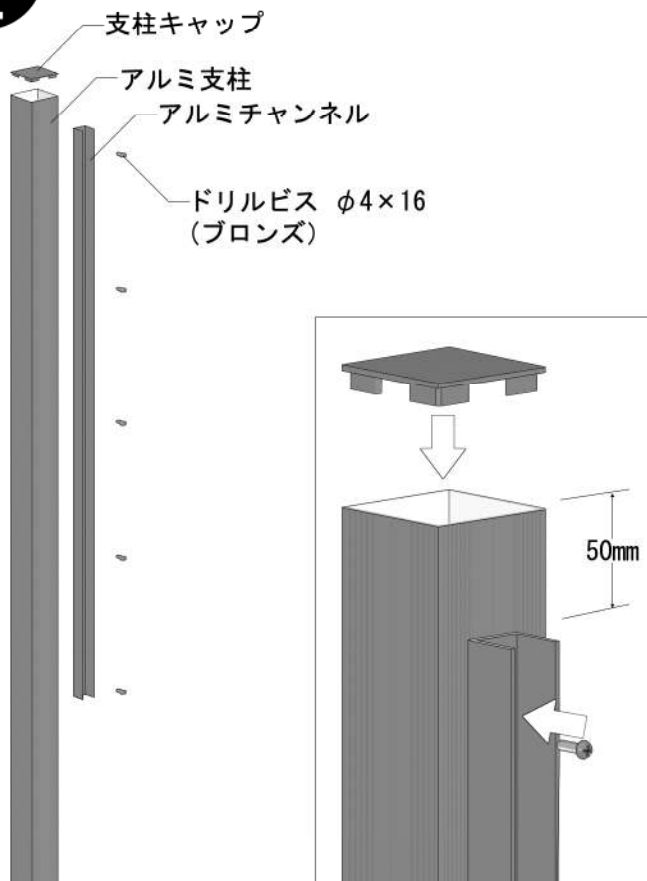
①最初に同封の部材明細より、梱包内容をご確認下さい。

②支柱の埋め込み位置を算出し、基礎穴を掘ります。
※地下埋設物を傷つけないようご注意ください。

③支柱の下がりを防ぐ為、穴底には石やブロックなど硬く平らなものを敷いて下さい。

Step 2

チャンネル・支柱キャップの取付



①支柱上部に支柱用キャップを取り付けます。

②チャンネルは支柱上部より50mmの位置で支柱の中心に合わせ、ドリルビスφ4×16(ブロンズ)で取り付けます。

※ドリルビスの目安

- ・1800mmの場合・・・5ヶ所
- ・1500mmの場合・・・4箇所

※ドリルビスの位置

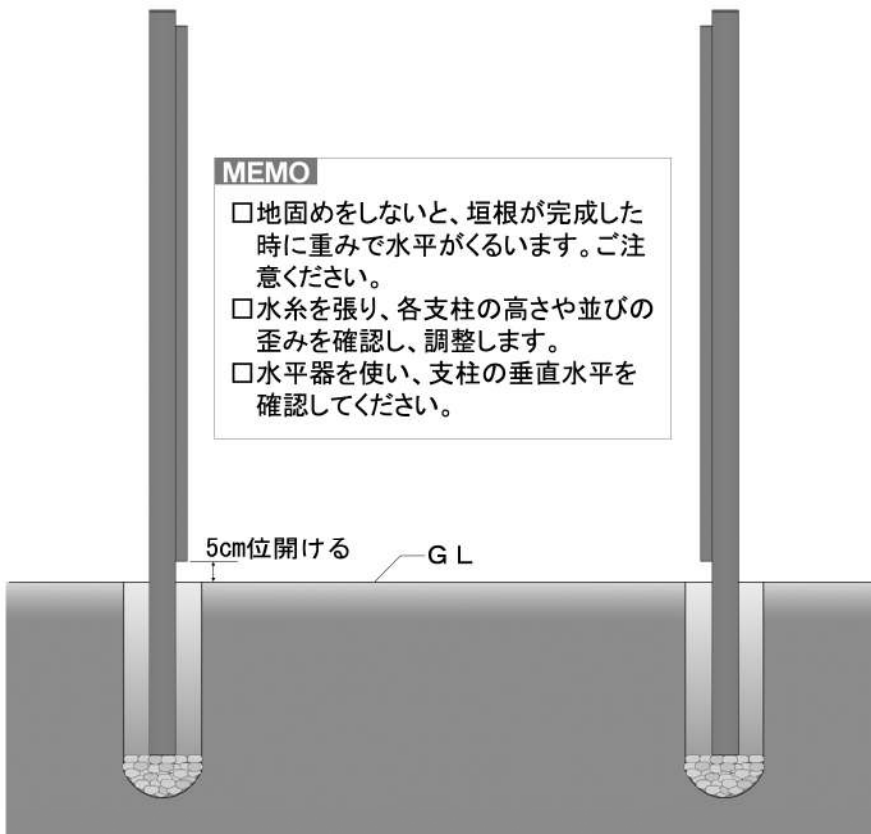
ドリルビスの位置は、後に取付ける胴縁と位置が重ならない様にする。

Step 3

支柱埋め込み

MEMO

- 地固めをしないと、垣根が完成した時に重みで水平がくります。ご注意ください。
- 水系を張り、各支柱の高さや並びの歪みを確認し、調整します。
- 水平器を使い、支柱の垂直水平を確認してください。



- ①支柱を基礎穴に差し込み、高さや並び、垂直と水平等を確認し、コンクリート等を流し込み固定します。
支柱について余計なコンクリート等は完全に拭き取って下さい。硬化してしまうと、拭き取った時に製品の表面を痛めますのでご注意ください。

※ 注意 ※

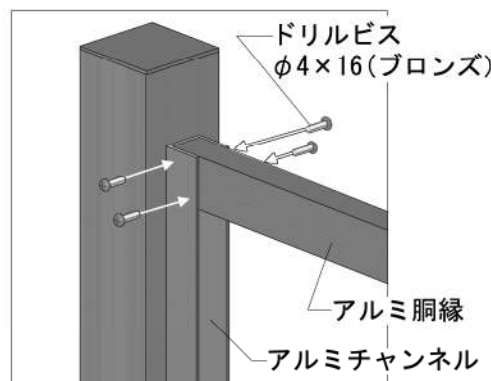
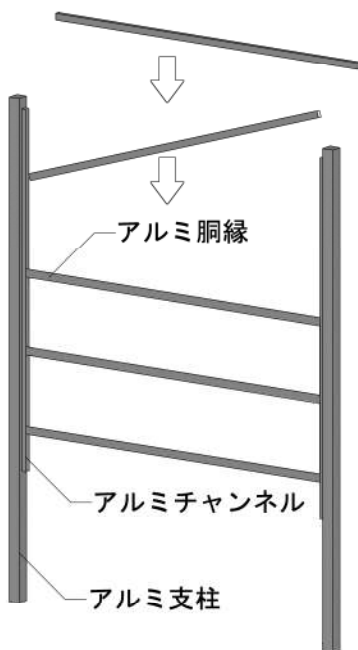
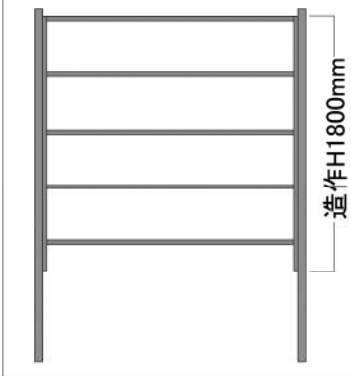
- ・コンクリートに使用する砂に、塩分を含んだ海砂等の使用は避けて下さい。アルミ合金が腐食する恐れがあります。
- ・コンクリートに速乾性添加物を入れないで下さい。アルミ合金が腐食する恐れがあります。

Step 4

胴縁の取り付け

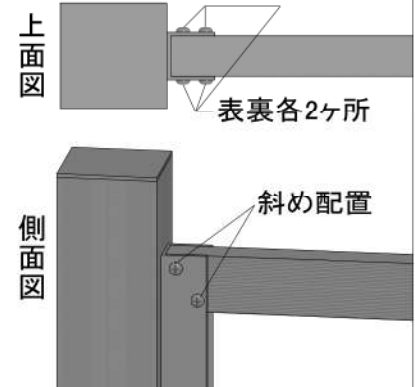
胴縁の本数

- ・造作H1800・・・5段仕様
 - ・造作H1500・・・4段仕様
- 下図は造作H1800の参考図



- ①チャンネルの溝に胴縁を差し込み、水平機で水平を測りながらドリルビスφ4×16(ブロンズ)で両端を固定して下さい。

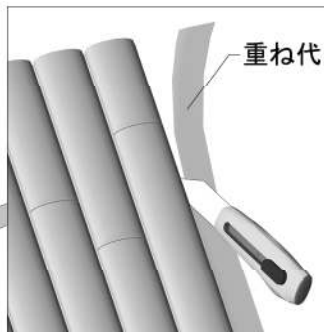
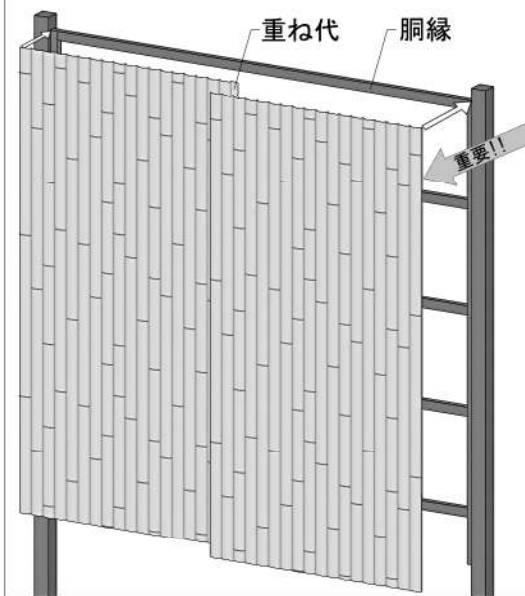
※ドリルビス取付位置の補足



- ②胴縁の間隔は造作H1800の場合、芯芯で405mm、造作H1500の場合440mmが目安です。どちらの場合でもチャンネルの下部は約145mm程余ります。

Step 5

パネルの取り付け



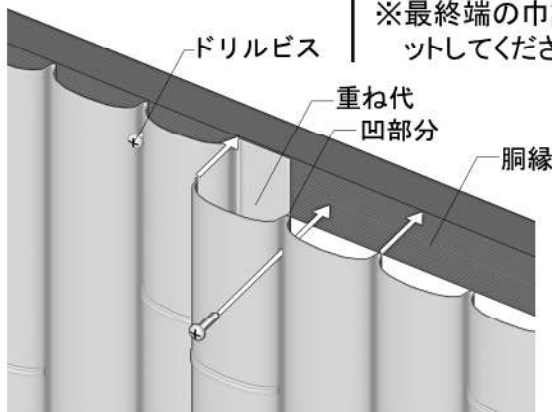
※余分な重ね代はカッターナイフ等で切り落としてください。

※ケガ等十分ご注意ください作業を行なってください。

①パネルは左端から貼り付けを行いません。パネルには向きがあります。重ね代を右側にします。

②パネル上部を最上段の胴縁に合わせ、ドリルビスφ4×16(イエロー)で固定していきます。
※ドリルビスはパネルの凹部分から胴縁に打ち付けます。

③1枚目の重ね代に重ね合わせ2枚目を貼り合わせます。
※最終端の巾調整は現場にてカットしてください。



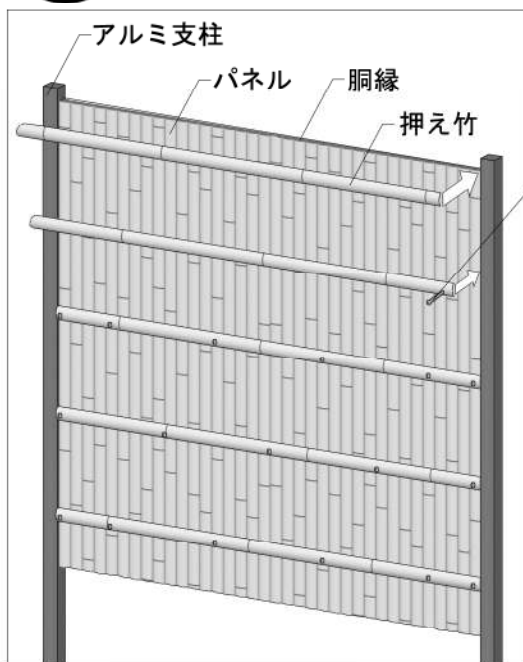
MEMO

□ドリルビスの本数の目安
巾900mmパネルでは、横一列に5ヶ所が目安です。

例)W1800×造作H1800(胴縁5段)の場合
パネル1枚分(5本×5段)×2枚=50本

Step 6

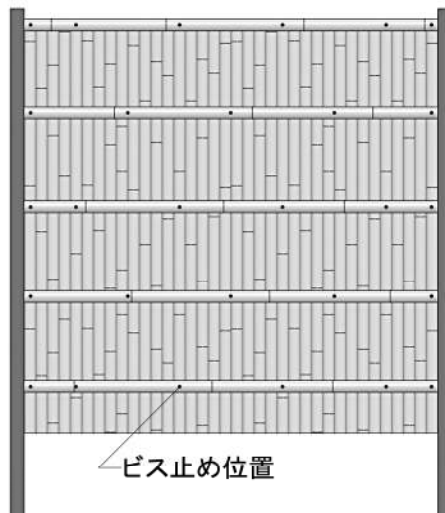
押え竹の取り付け



①押え竹を胴縁がある位置に、ドリルビスφ4×45(イエロー)で固定して下さい。

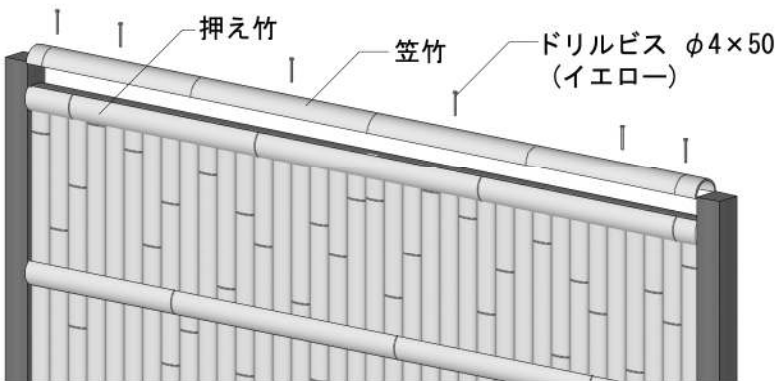
MEMO

□ドリルビスの止め位置の目安



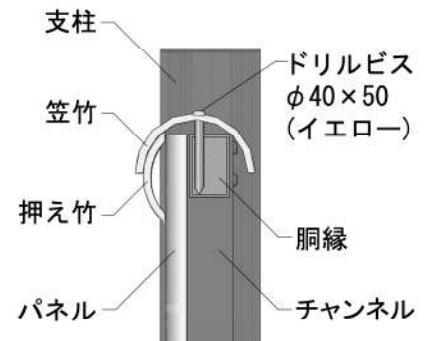
Step 7

笠竹の取り付け



① 笠竹を最上段の押え竹と胴縁の上に被せ、ドリルビスφ4×50(イエロー)で固定します。

※ドリルビスは必ず胴縁に打ち付けて下さい。

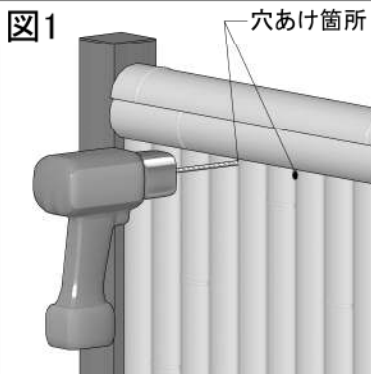


側面断面図

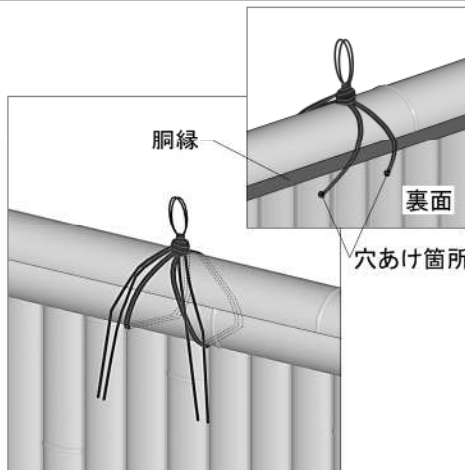
Step 8

飾り縄の取り付け

図1



↑ 笠竹 飾り縄用 穴あけ作業



↑ 笠竹 飾り縄 仕上り図

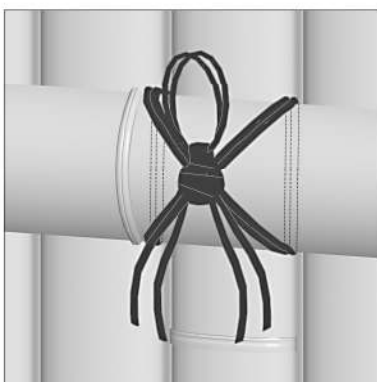
① 押え竹と笠竹のビス止めした箇所を、ポリコードで飾り付けます。

※すべてのビスが隠れるわけではありません。

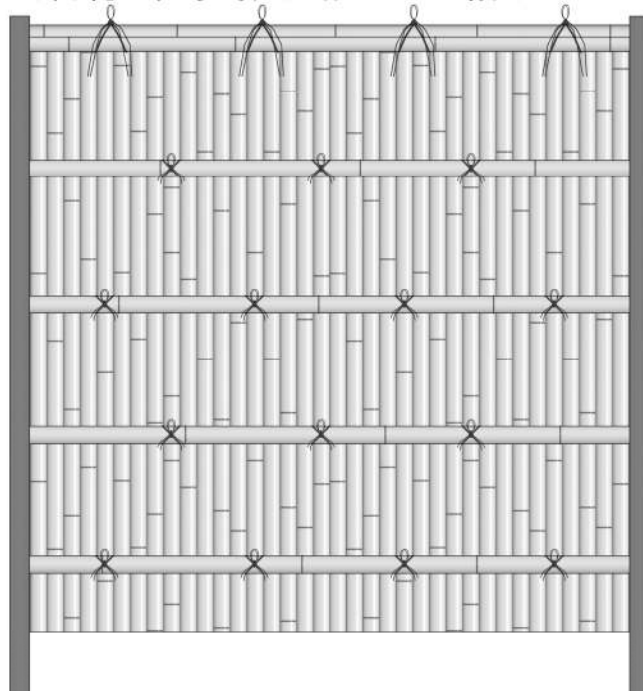
② 笠竹の飾り縄は、予めパネルに穴を開け(図1)、ポリコードを裏に通すようにします。

③ 押え竹の飾り縄は、押え竹とパネルの隙間にポリコードを通して縛り付けます。

↓ 飾り縄 配置 参考図(造作H1800の場合)

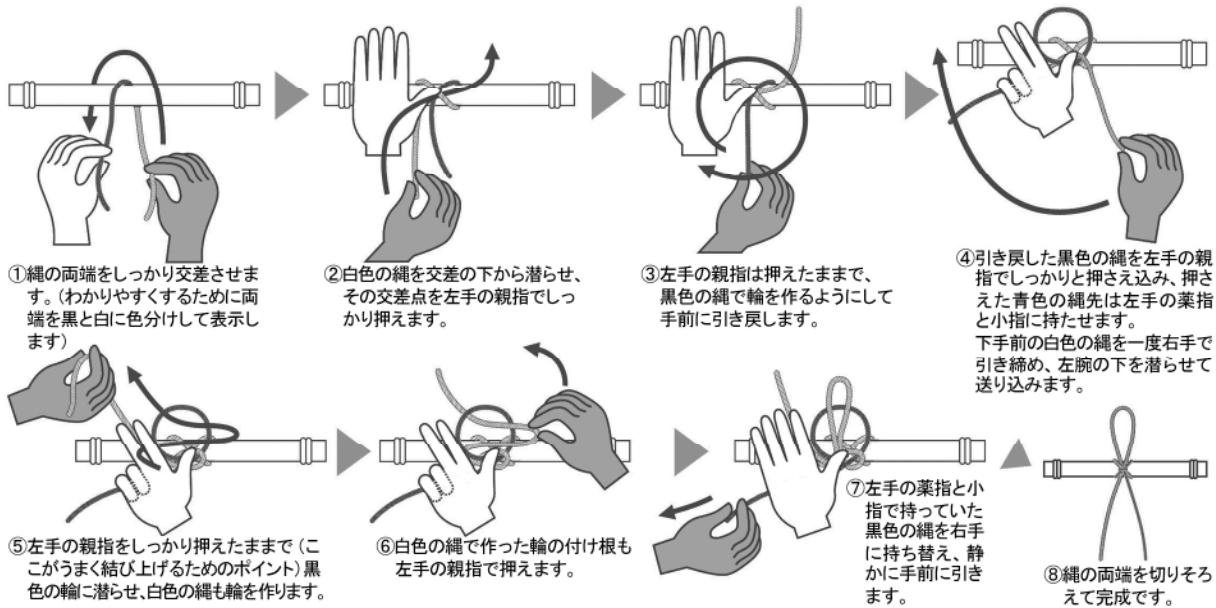


↑ 押え竹 飾り縄 仕上り図



Step 9

飾り縄の結び方



① 縄の両端をしっかり交差させます。(わかりやすくするために両端を黒と白に色分けて表示します)

② 白色の縄を交差の下から潜らせ、その交差点を左手の親指でしっかり押えます。

③ 左手の親指は押えたままで、黒色の縄で輪を作るようにして手前に引き戻します。

④ 引き戻した黒色の縄を左手の親指でしっかりと押さえ込み、押さえた青色の縄先は左手の薬指と小指に持たせます。下手前の白色の縄を一度右手で引き締め、左腕の下を潜らせて送り込みます。

⑤ 左手の親指をしっかりと押えたままで(ここがうまく結び上げるためのポイント)黒色の輪に潜らせ、白色の縄も輪を作ります。

⑥ 白色の縄で作った輪の付け根も左手の親指で押えます。

⑦ 左手の薬指と小指で持っていた黒色の縄を右手に持ち替え、静かに手前に引きます。

⑧ 縄の両端を切りそろえて完成です。

Step 10

お手入れのお願い

●樹脂パネルのお手入れ方法

- ・軽い汚れの場合は、真水で洗浄してください。
 - ・ひどい汚れの場合は、表面の砂などを取り除き、薄めた中性洗剤で、傷を付けないように柔らかい布等で洗浄してください。
- ※特にひどい汚れを落とす場合でも、シンナー・ベンジンなどの有機溶剤や、酸性洗剤・アルカリ洗剤などは、ひび割れ等の原因となりますので、絶対に使用しないでください。また、金属ブラシや、やすり等もパネル面を傷つけますので絶対に使用しないでください。

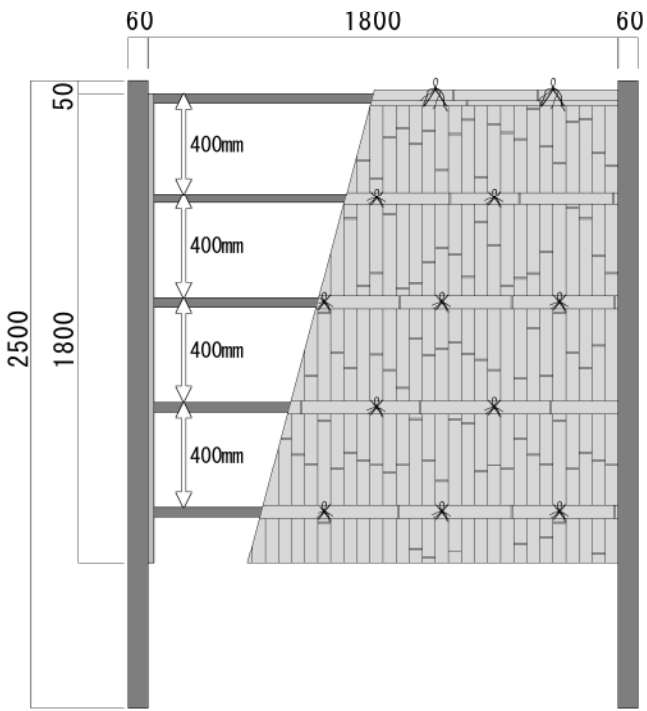
●アルミ部材のお手入れ方法

- ・通常のお手入れの場合は、年に1~2回、定期的に水洗いをしてください。(汚れのひどくなる工業地帯や海岸地帯は、回数を増やしてください。)
 - ・落ちにくい汚れの場合は、薄めた中性洗剤で汚れを落とし、洗剤が残らないように真水で洗い流します。その後十分にかき拭きをしてください。
- ※特にひどい汚れを落とす場合でも、シンナー・ベンジンなどの有機溶剤や、酸性洗剤・アルカリ洗剤などは、ひび割れ等の原因となりますので、絶対に使用しないでください。また、金属ブラシや、やすり等もパネル面を傷つけますので絶対に使用しないでください。

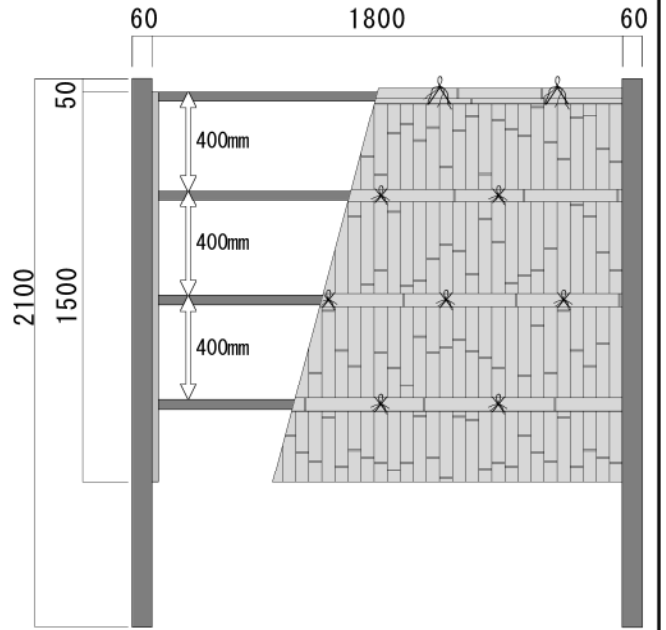
●各部材のご注意

- ・パネルや、アルミ部材が老朽化したり、破損した場合には、速やかに施工店、もしくは販売店に相談してください。そのまま放置しますと、事故につながる恐れがあります。

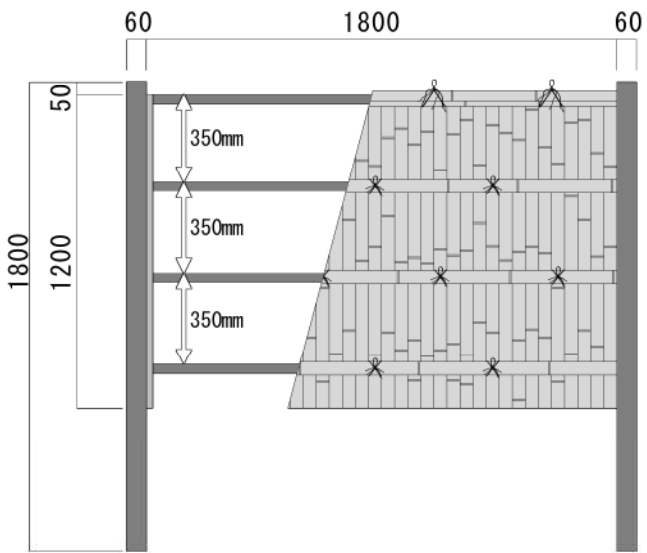
造作H1800mm 参考寸法图



造作H1500mm 参考寸法图



造作H1200mm 参考寸法图



造作H900mm 参考寸法图

